

条例第8条第2項の規定による公表内容

実施機関名（担当部課）	伊予市長 中 村 佑 （行政改革・政策推進室）	
政策等の案の名称	伊予市第三セクター等経営改革プラン（案）	
政策等の趣旨・目的 作成経緯	<p>将来の経済・財政環境の変化に耐えうる持続可能な伊予市の実現に向け、第三セクター等の抜本的な改革を先送りすることなく早期に取り組み、将来的な財政負担の明確化と計画的な削減、堅実な法人運営を確立するための「改革プラン」を策定する。</p>	
No.	市民等からの意見（概要）	実施機関の考え方及び修正した場合の内容
①	株式会社 まちづくり郡中	
1	<p>第三セクターは、緊張感なき経営が赤字体質を生み、自治体財政を悪化させるため、相互依存と馴れ合いの関係を改めるべきである。</p> <p>市職員が取締役へ就任すれば経営判断より政治判断を優先させる傾向にあるため、「所有と経営の分離」を徹底し、市の取締役役に代えて市が経営の専門家を配することで、経営能力や緊張感を高めた迅速な改革が期待できる。</p> <p>第三セクターの評価に際しては、設立の本旨に即した議論が必要で、行政目的や地域ニーズに対応する経営であるか否かを評価基準とすべきであり、経営上の数値のみで評価を行うべきではない。</p> <p>（株）まちづくり郡中は、引き続き三セクで経営を行うとされているが、事業の実態は、指定管理者としての町家経営が中心で、設立目的である中心市街地の活性化事業はおざなりであり、町家からの回遊ルート・新たな拠点づくり等の早急な具体化が必要である。</p> <p>町家の業績向上は中心市街地における既存商店の売上の減少をもたらす副作用があるため、その犠牲を上回る事業成果が求められているところに、今夏、大型店の進出（予定）である。</p> <p>この際、自立可能な町家経営は民間にゆだねて身軽になり、本体業務である中心市街地活性化事業に専念するためにも、まちづくり・経営の専門家が市の委託による取締役となり、民間からは若手経済人を登用し、新たな感性でまちづくりを行うべきである。</p> <p>組織形態も利益追求を目的としないNPO ないし社団・財団への衣替えが望ましく、さらには他の第三セクターの改革を含めた総合的・戦略的経営母体の創設にまで進めるべきだ。</p>	<p>この度の経営改革プランは、伊予市第三セクター等経営改革検討委員会からの答申を踏まえた上で、「当該法人の事業内容あるいは他の出資者との関係で市長等が役員に就任する場合は、当該法人の経営の自立化を促進する観点から必要最小限の人数とする。また、役職員の選任については職務権限や責任にふさわしい人材を広く求めることを適当として、民間の経営ノウハウを有する人材が積極的に登用されるよう努める。」とした今後の運営体制に関する考えを示しています。</p> <p>改革プランの策定に当たっては、経営や法律等に専門的な知識を有する委員により、対象法人ごとの個別ヒアリングを実施し、国から示された処理策検討の手順（抜本的処理策検討のフローチャート）に沿って、事業そのものの意義・採算性・事業手法の選択等について可能な限り広範かつ客観的な検討を行い、そこで得られた意見を取り入れています。</p> <p>また、「（株）まちづくり郡中」は、個別に実施したヒアリングにおいて、今後、中心市街地の活性化に向け、能力と意欲のあるタウンマネージャーが必要と考えており、併せて活性化策を話し合う協議会を立ち上げ、「まちづくり」の視点で中心市街地の賑わい回復のために事業展開を図る計画があることが確認されています。</p> <p>この改革プランは、本年度から5年を計画期間として定めるもので、当該期間内に上記事業への取り組みを明らかにする法人は、「社会的便益を広く地域にもたらす事業を実施する主体（団体）」と認識し、当面は第三セクター方式の良さを活かしながら活動を行うことが適当と判断したものです。</p> <p>なお、計画期間中には、経営に関する自己診断や予備診断を行い、必要であれば計画途中であっても組織の再編に踏み込むことも想定しています。</p>

② 有限会社 栗の里なかやま	
(1) 第三セクターの存続について	
2	<p>第三セクターは地域経済の活性化を目的として農産物及び商工業品等の販売を行い所得の向上を図るために、まちづくり政策ののっとり実施したものである。</p> <p>あらゆる市町村が物産店をつくり、同じような方式で運営をした結果、売上の減少をきたしており、第三セクターの80%以上が赤字経営と言われている。なぜこのような状況になったか、商売を知らない行政上がりの店長を置いたり、行政が口出しをしすぎることにある。</p> <p>私の持論は、経営の分かる人材を一人でいいから雇用し、お客を待つ商売でなく、動の商売をすべきである。「南栗の里なかやま」にもコンビニ経営の経験者もいるはずなのに、意見が合わない理由で活用できていないのではないかな。</p> <p>赤字体質のある事業は民間委託方式を取っているが、行政サービスとは民間でできないことに税金をつぎ込み、住民経済を潤すのが行政ではないか。難しい仕事はすべて民間委託方式を採用するとすれば、職員は住民サービスとして何をやるのでしょうか。</p>
3	私達の生きがいの場として頑張っています。このまま第三セクターであって欲しいです。
4	<p>毎週出荷をしながら段々お客さんの数も減り、いつも寂しい思いがしている一人です。</p> <p>売れさえすれば皆生産する意欲はまだまだ充分にあると思います。</p> <p>皆さんの大切な生きがいをも失いかねません。民営化にだけはならないようによろしくお願いします。</p>
5	今までどおりが良い。
6	社員の中で給料をもらいすぎている人がいると思う。自分で作っていないから、物を粗末に扱っている。手数料が高すぎる。民営化反対。
7	民営化になってからの給料のことが心配である。民営化反対。若い者の給料が少ないのではないかな。
(2) 産直市の存続について	
8	<p>1 「特産品センター」の委託販売事業（産直市）は是非継続する。</p> <p>2 委託販売事業（産直市）の拡充</p> <p>(1) 情報伝達・コミュニケーションづくりの組織の確立</p> <p>(2) 担当職員による、より良い商品を届けるための顧客ニーズの把握、商品づくり、品質管理等のノウハウ提供・指導力の発揮</p> <p>(3) 事業の活性化策として視察旅行等の実施</p> <p>(4) 新商品の開発導入、品揃えの多様化促進</p>
9	「ふるさと市」は残して欲しい。ここだけに出荷している方々もいるため。
10	<p>中山町の玄関口、また、私達にとっては生きがいの場所です。</p> <p>お客さんとの会話や笑い、いつもの合言葉、生きる喜び、友の支えがあって今までできました。</p> <p>人生、死ぬまで働くこと。お願いします。</p>
11	<p>JR中山駅にある「特産品センター」の産直市はなくさないで今までどおり地元の商品売る場として続けて欲しい。</p> <p>「特産品センター」の存続が難しいなら、駅周辺のスーパーで青空市でもよいので、野菜の産直市として販売できることを望む。</p>
<p>伊予市は、平成18年度に外郭団体の経営及び市との関係について基本的な考え方を明確にし、適切な指導監督を行いながら外郭団体の自発的な経営改革と自立を促すことを目的として「外郭団体の経営に関する指針」を策定しました。</p> <p>これにより、第三セクターに対しても適切な経営指導を求められたことから、平成19年度に経営コンサルによる診断を実施し、</p> <p>「南栗の里なかやま」については、高速道路の延伸開通により観光バス・マイカーなどの交通量が大幅に減少していることに留意した経営が必要である。</p> <p>「特産品センター」については、周辺地域に同様の施設が複数設置され、来場者の減少と販売商品である農作物の仕入確保が困難であることから、設立当初の目的は一通り達成され公的な役割は終えたと考えられる。</p> <p>「クラフトの里」については、施設は比較的新しく、資産価値・利用価値は充分に残されているため、クラフトセンターの名称に縛られず、設置目的や名称の変更・建物の転用により有効活用を行うべきである。</p> <p>とした分析・検証結果を得て、財政的自立に向けた取り組みを検討してまいりましたが、計画どおりに進行しない状況にありました。</p> <p>こうした事情から、経営や法律等の専門的な知識を有する者で構成する「伊予市第三セクター等経営改革検討委員会」を設置し、上記の内容を踏まえた上で、国から示された処理策検討の手順に沿って審議を行いました。</p> <p>まず、第三セクターとしての事業の意義についての評価を行い、来場者の減少と農産物の確保が困難になりつつあることから当初の政策的意義が薄れたと判定し、採算性については、所管事業の実質赤字傾向が続き繰越損失も毎年増加しているため現在の収益構造では改善が望めないとする審査結果であるものの、事業性については、施設を一体化するなどの統合や経営改革に取り組むことにより事業としての継続性が望めると判定したことから、最終的に民営化を目指すとの答申を受け、伊予市としての方針決定を行いました。</p> <p>これは、「南栗の里なかやま」が担う現在の役割機能を見直し、中山地域の個別施設としての機能と伊予市が総合的に進める産業振興策の推進母体としての機能とを区分し、施設の機能目的を明確にしたうえで、第三セクター方式ではなく、実質的な民営化へ移行するものです。</p> <p>また、「特産品センター」と「クラフトの里」については、類似競合する施設であることから一体化して効率的な運営を図り、経営改善に取り組みながら当面は民営化に向けた準備を行い、地域活性化の目的に沿った事業が継続されるよう条件を整えたいと完全民営化を行うこととしています。</p> <p>「ふるさと市」と「しあわせ市」は、「特産品センター」や「クラフトの里」の指定管理者である「南栗の里なかやま」が自主事業として地域農産物や加工品の販売を行っている産直市です。</p> <p>これら産直市の今後のあり方については、「南栗の里なかやま」が法人と産直市の関係を明確にしたうえで、類似施設の一体化についての検討を行い、民営化に向けた条件整備を協議していく中で、産直市の存続が法人の意思によって決定されることになります。</p> <p>なお、伊予市の公の施設である「特産品センター」や「クラフトの里」については、「南栗の里なかやま」が民営化となった場合でも使用が可能となるよう条件整備を整えることとしており、関係者が十分な協議を尽くしていただきたいと考えます。</p>	

12	<p>「ふるさと市」と「毎日市」は今後も続けていきたいと思ひます。</p> <p>J R中山駅は中山の玄関口である。</p> <p>「ふるさと市」がなくなれば、生産者はもちろん消費者も困るし、さみしくなると思ひます。</p> <p>是非、残してください。</p>
13	<p>最近の中山町の衰退は激しく、商業の落ち込みも同様。街中で人を見かけなくなりました。「特産品センター」は中山の玄関で無くなることはとても寂しく、存続して欲しいと思ひます。</p> <p>総会の資料でも、一人当たりの売上を計算する経営はとても大変で、職員の方も努力していただいていると思ひます。</p> <p>すでに改善計画はできているようですが、職員・生産者・商品納入者と話し合う機会を早く持ち、対応を考え、意見を出しあえる会を定期的に開いて努力してみることも大切だと思ひます。</p> <p>商業の方も人の集まる「クラフトの里」や「特産品センター」に関わってないと大変ななっています。住民の気力をなくすのではなく、ともに努力して活力ある中山にするために伊予市をお願いいたします。</p>
14	<p>中山町の玄関口の光を消さないでください。</p> <p>この年になっては市場へも行けません。</p> <p>老人の芽を止めないでください。</p>
15	<p>高速道路の無料化に伴い、56号線の車は減少することは火を見るよりも明らかで、皆が心配しているところだす。高齢化した中山町はお山の上に取り残されてしまひそうです。</p> <p>今こそ中山の玄関口であるJ Rの駅をはじめとして、「ふるさと市」の活性化をして、一人ひとりが少しでも豊かな生きがいのある町にしたいものです。</p> <p>J Rを利用して隣の町から遊びに来てくださるお客さん。このような貴重なお客さんをもっと大切に、声をかけ合い優しく心を通い合わせることでできる日溜りのような、ほっと一息つける場所にしたい。</p> <p>それには今の駐車場は狭すぎます。山手側の方を道路沿いに切り取って少しでも広くする。</p>
16	<p>中山間農地が荒廢するなかで、少しでも農地を守り現金収入を得る施設として、なくてはならないものと思ひます。</p> <p>地域の住民を守る意味でも行政が関わってもらいたいと思ひ次第です。</p>
17	<p>私達農業者が田舎で生活するための収入源であり、地域活性化、中山間農地を維持するためには、どうしても必要なものと思ひます。</p>
18	<p>「特産品センター」及び「ふるさと市」のある場所は、中山の駅横で言わば町の顔・玄関と言ってもいいと思ひます。そんな大切な場所がなくなれば、中山は取り残され寂れてしまひます。</p> <p>「ふるさと市」は駅を利用する人がいつも立ち寄り、会話をし活性化をはかっています。毎日無料に近い賃金で当番を行い、イベントを行って頑張っています。</p> <p>この産直市はぜひ続けて行きたいと願っています。</p>
19	<p>○昭和61年6月に「ふるさと市」が開かれ現在に至っております。地域の活性化と生産者と消費者とのふれあいの場として女性だけでスタートしました。</p> <p>視察研修会を重ね、地域を生かした新鮮野菜・安全安心な農産物をはじめ中山の素材を活かした加工品づくりに取り組んできました。</p> <p>今後とも「ふるさと市」会員一人ひとりがしっかりと市のことを考え大切に頑張っていきたいです。</p> <p>J R利用の常連さん、マイカーのお客さん、町内のおなじみさんを大切に頑張って存続したいです。</p> <p>○「しあわせ市」は地域の活性化と自分達の産直市として自分達で守りたい。</p> <p>会員一人ひとりが市を大切に頑張りたいです。</p> <p>是非とも残して欲しいと思ひます。</p>

20	<p>「ふるさと市」は中山の玄関です。JRからの発信・交流の場・手づくりの味をお客さまに届けます。</p> <p>「ふるさと市」・「毎日市」は自分の力で生きていきます。</p> <p>「クラフトの里」は暗すぎます。客層が違います。売り場は二箇所の方が良いと思います。</p> <p>外販の見直しを。手数料は26%もいるのでは出荷者はいませんし、良いものは出ません。</p> <p>松山市内の空き店舗を利用して、中山の味、産直市を出そう。生産者を交えて手数料を20%までに。</p>
21	<p>○「ふるさと市」は女性団体として開設以来24年になります。加工品・農産物・漬物・野菜の苗の販売、最初はテントから始め小屋に変わり今日に至っております。</p> <p>女性としての当座もでき活気づいていました。</p> <p>他に売り場も多くでき、困難になっていますが、中山の顔としての「ふるさと市」は存続させて欲しい。</p> <p>○私達長沢地区は産直市が近くにあり出荷するのにとても便利です。</p> <p>野菜栽培が盛んなところなので、是非とも残して欲しい。</p>
22	<p>新聞を読んでびっくりした。その後で意見を聞くのは逆ではないかと思う。言い訳のために意見を聞くみたいで信じがたい。聞くところによると旧伊予市内の「榎まちづくり郡中」は残して中山と双海は切るという。切るなら差別をしないで全部を一緒にしてもらいたい。</p> <p>赤字でも地域の活性化のためには手を差し伸べることもあるのではないだろうか。それが行政だと思う。</p> <p>「特産品センター」と「ふるさと市」とは持ちつ持たれつの仲なので何としてもセンターは閉めないで欲しい。と言っても今のままではだめだ。私達は自分の市を守るために必死になるけれど、第三セクターの人達は危機感がなく公務員のような。自分の職場を守るためにもっと動いて考えて欲しい。</p> <p>私達もセンターを必要とするから少しでも助けねばと恥ずかしいような日当で毎日市を行い何人かの分の給料を稼いであげているような感じである。さびしい時は人件費を減らして1.5人分働いて立て直さなければならないと思う。</p> <p>今のセンターは人が多すぎるのではないか。</p> <p>過疎化が進むから赤字でも活性化の為にはやる気を起こさせるためにも必要だと思うのでもう少し残して様子をみて欲しい。</p>
23	<p>「ふるさと市」は中山の女性の自立を支え地域の活性化にも非常に貢献してきた大切な市です。</p> <p>中山の加工場の運営にも大きく影響が出てくると思われます。どうか存続の方向で前向きに検討していただきますよう、よろしくをお願いします。</p>
24	<p>「クラフトの里」・「特産品センター」は一度解散すべきだと思います。トップの危機感が薄く改善策など感じられない(努力が見えない)。</p> <p>駅前のため中山のお土産を町外にとかレジのおばちゃんとの情報交換の場と喜ばれています。</p> <p>町の活性化にも色々なイベントにも進んで参加させてもらっています。</p> <p>最初から女性ばかりの会員ですが、和をモットーに一致団結して頑張っています。今は市のあり方など話し合っています。継続していけるようよろしくお願いします。</p>
25	<p>この会社の仕組みでは良くならない。</p> <p>相談があるでなし、意見を出しても無視、給料取りが多すぎる。民営化されても産直市だけは残してください。</p>
26	<p>野菜などは大勢の人の作物を受け入れて、商品がどの程度のものか良く確かめて受け取る必要があると思います。</p> <p>「クラフトの里」と「特産品センター」が26%は少し高いように思います。もう少し安く願います。</p> <p>「ふるさと市」と「しあわせ市」の店舗統合は人数も違います。少し無理があると思います。</p> <p>産直市は、私達の生きがいでそのまま続けて欲しいと思います。</p>

27	<p>設立当初の目的達成とあるが、「榊栗の里なかやま」がなくなれば、生きがいなくなるように思われる。少ない生産者の立場が分かっていない。少しでもお金を取りたい気持ちは職員には分からないのだろうか。</p> <p>皆が参加して手伝いながら売る楽しさ、消費者の気持ちを知りながら生産する楽しさを思うとき、これらを取り上げる気持ちが分からない。</p>
28	<p>「特産品センター」は中山の玄関口であり、中山駅もあるのでそのまま残していただきたいと思います。</p> <p>民営化の前に人件費（経費のコスト削減）に努力していただきたいと思います。</p> <p>生産者とのつながりをもっと大事にして品物を出してもらおうと会合も開いてもらいたいと思います。</p>
29	<p>愛媛県でもトップをきって産直市を開設し、昭和61年より中山の女性は輝いている、生き生きしていると言われてきた。女性の地位の向上、家庭の経済効果、中山の活性化等、様々な利点を生み出し、小さな市ではあるけど固定客もでき、その人達との会話も弾み、他町との交流があります。</p> <p>今後、団塊の世代の人達が「市のはしご」をして、一日、あっちこっちぶらぶら過ごすためには、一箇所へまとめるのではなくて、方々で楽しめるヨーロッパのグリーンツーリズム的な方が良いと思います。少数の会員でもやる気のある集団を大切にしてください。</p> <p>「特産品センター」は規模を縮小してでも是非残してください。そのために今後2年間は死に物狂いで頑張ってください。</p> <p>まだまだ改善すべきことがたくさんあると思います。</p>
30	<p>中山の「特産品センター」と「ふるさと市」はぜひ残してください。</p> <p>産直市が統合するようになれば、私はやめなければなりません。よろしくお願いします。</p>
31	<p>「特産品センター」ができてから、ずっと野菜・加工品を出させていただいています。</p> <p>高速道路が通ってからは客数も減ってきていますが、松山への店頭販売の店を出してもらったりして頑張っています。</p> <p>産直市もどこよりも早く始めました。</p> <p>皆、年をとってききましたが、やりがいを持って頑張っています。残せるものが何かあるはずです。</p>
32	<p>中山にとって駅前到店がなくなるといことは、火が消えたような感じになる。</p> <p>栗を買ってくれるお客様も「特産品センター」がなくなれば困るのではないかな。</p> <p>中山の産品にこだわり、町外のは扱わず、自分達だけのもの頑張っています。</p> <p>外販に行くのであれば、「特産品センター」内にも人数を一人か二人は置いて欲しいと思います。</p> <p>「クラフトの里」と統合してもお客さんが増えるとは考えられない。やはり小さくても店は必要だと思う。</p>
33	<p>「特産品センター」と「ふるさと市」を是非残して欲しいです。</p> <p>中山の玄関口として駅を利用される方にはどうしてもあって欲しいお店だと思います。</p> <p>高齢化が進む今日、車での運転ができなくなると近くで買物ができるところがなくてはならないと思うのです。</p> <p>皆で中山町活性化のために考えて欲しいです。</p> <p>町内外の方でもちょっと寄って買物をしたり、世間話をしたりして、人と人との絆が生まれると思います。</p> <p>年をとっても体と頭を使って「ふるさと市」等に少しの野菜・果物を作って出すことを生きがいに行っている方も多いと思います。</p> <p>ボケ防止のためにも是非、「ふるさと市」は残して欲しいです。</p>
34	<p>ハウスで苺を作っているので苺の時期は利用させてもらっています。</p> <p>町の活性化のためにも生き残って欲しいと思います。</p> <p>外販品を買い上げにすればどうだろう。返品できるから力の入れ方も違うと思う。</p>

35	<p>市町村合併により、役場の機能が貧弱となり一層深刻な過疎化が進んだことは残念である。</p> <p>「ふるさと市」・「しあわせ市」開設20年来、農家の主婦を中心にやる気を起こし元気の源を築いてきた。</p> <p>○「ふるさと市」と「しあわせ市」の合併はやむを得ないが、きちんとした店舗の改装をする。</p> <p>○現在の「毎日市」は存続する。地域や会員の元気を維持することを第一に考えるべきだ。</p> <p>○出先店舗を一店にして、車及び人員の削減をして、まずは地元の店舗の充実に努めること。</p> <p>○「南栗の里なかやま」の役員等の人数の適正化</p> <p>○「特産品センター」開店時の原点にかえて運営すること。(私ども出荷者が交代で松山JR店等に商品の運搬、無報酬で販売の手伝いをしていた。)</p>	
(3) 施設の運営について		<p>※「南栗の里なかやま」の運営に対する意見であるため、当法人へ回付することとしたもの。</p>
36	<p>高速道路無料化になると、ますます地域の衰退に拍車がかかる。</p> <p>今は販売商品が少ないため、客離れが目立っている。</p> <p>町外へ発信することも大切で良いことと思うが、中山の目玉が少ない気がする。</p> <p>そば、栗、佐礼谷自治で取り組もうとしている猪肉・みそ等を使った製品を研究・開発・実践活動を行い、趣旨に賛同する者を募ってみては？</p> <p>また、ふるさと宅配事業を宣伝し、広めていければ良いと思う。</p> <p>“鮮度100 自然も 味覚も 人情も”をモットーに</p>	<p>今後、経営改革プランの具体的な取り組みを進めていく中で、提案いただいたご意見を参考に経営改善が図られるよう指導してまいります。</p>
37	<p>○特産品センター ふるさと小包に力を入れたらよいのでは？ 農家が高齢化してきた今日、野菜の集荷を行えば？ 松山方面の商店への出荷について少し吟味しては？ 出荷商品の店舗での吟味は？</p> <p>○「ふるさと市」・「しあわせ市」 合併は必要と思われるが、店舗によって客筋が違うこと、どちらの店舗でも言えることですが、土曜と日曜との客筋が違うことに注目すべきと思う。</p> <p>○特産品センターの建物は必要に応じて改築（減築含む）してみては。</p> <p>○会社の内容については、分かりづらいが「栗の里なかやま」の社内については人的に改善の必要があるのではないか。</p>	
38	<p>行ってみたいと思う中山の魅力ある場所がない。</p> <p>これを買いたいと思う品物がない。</p> <p>仕事に対して給与の多い男性が多すぎるのでは？</p>	
39	<p>私も高齢になってきたので農産物の出品も多くはできなくなっています。</p> <p>今後の運営については、会員の方々の意見に従っていきます。</p>	
40	<p>月に2回は道の駅に行っています。</p> <p>今のセンターは品物は良いけど中山の野菜がない。毎日中山の野菜があれば人は来ると思う。</p> <p>ある道の駅はドーナツを販売しています。いつ行っても、それを求めて人がたくさん来ています。</p> <p>店が暗いと思うのでもっと明るくしたい。</p>	
41	<p>56号線の産直市としては最も歴史が古く、県内でも2・3番目の開設だったと思います。</p> <p>旧中山町の産直活動をリードして町の活性化や女性の自立に貢献したばかりでなく、試行錯誤して産直活動のノウハウを作り、内子町の「からり」をはじめ県内外の多くの産直活動に影響を与えました。</p> <p>歴史がどうした。と言われればそれまでですが、現在の問題点をもっと突っ込んで分析し、それを会員や住民に公開し、広く意見を求める努力が足りないのではないのでしょうか。</p> <p>「ふるさと市」としては、ぐんぐん伸びていった時代から停滞期・衰退期と会員の話し合いや努力はしていたと思いますが、組織としての自立性が高かったこと（運営委員会により行政やJAのバックアップにあまり頼らなかった）が裏目に出て、産直活動の内容検討のための広く深い情報が少なく、会員の考えの域を出なかったことが、時</p>	

41	<p>代や環境の変化についていけなかった大きな原因だと思います。</p> <p>産直市の環境はマイナス要因が多く、起死回生の策を求めるのは難しいのですが、現状は生産者の高齢化から生きがいの場として残したいという意見が多いようで、産直成熟期において会員側の事情よりもお客様側の要望・志向が優先されることは言うまでもありませんが、会員の高い自主性を活かせば、ここに生き残りの道があるように思います。</p> <p>これをコンセプトとした「ふるさと市」の環境整備を全会員で合意し、具体策については委員を選び「新ふるさと市」のビジョンを総会に答申してはどうでしょうか。</p> <p>行政当局や「南栗の里なかやま」からの産直市活動に対する色々な情報等を基にご指導をお願い申し上げます。</p>
42	<p>「クラフトの里」の土日開催の「しあわせ市」</p> <p>ほとんど一人の私は野菜なども多くは出荷できません。ただどなるべく多くの野菜を出荷できるよう頑張っています。</p> <p>土日以外の常設市も少しは出しているのですが、常設市の手数料が高いように思います。</p> <p>もっと安くしてもらえれば常設市出す人も増えるし、私のような小規模の農家の人も出す回数も増え、品物が増えればお客さんも増えると思います。</p>
43	<p>もう若くもなく年をとりましたので、もう何年もは頑張ることができませんから、今後のことについては意見は出しかねますのでよろしくお願いします。</p>
44	<p>食堂事業について昼食1回だけの時間帯営業では黒字経営は成り立たないと思います。</p> <p>午前中を少し遅く開店し、夕方7時から8時までの営業に切り替える必要があると思います。</p> <p>一部分の職員ではありますが、未だに公務員の気持ちで働いているのも営業の足を引っ張る原因の一つではないでしょうか？</p>
45	<p>昔のことを思い出します。こんな山の中に多くの方が野菜を求めて来てくださる。本当にお客様は神様で感謝・感謝でいっぱいでした。出荷者も一人でも多くの方に新鮮で安全な品物を一生懸命に作ることに専念したものです。</p> <p>そして数年の歴史の中で多くの成果を納めたと思います。</p> <p>しかし、年々出荷者も多くの年を重ね、また来場者も減少してゆく中で、地元に出荷するだけでは不安とあってか、他の地区に出荷する人も多くなり、そしていつしか地元の売り場には品物が少なくなり、また来場者も少なくなってきたのが現状です。</p> <p>今後、類似施設の一体化については、同じ品物が多くなり売上の伸び悩みとなりかねません。</p> <p>商品の出荷をどのようにするか。一人でも来場者を多くするにはどうすべきか。地元の商品を多くし、中山の特徴を生かしてお客様を取り付けるには、今のままで伸ばす方法はないかと色々考えます。</p>